

岡山県感染症週報 2012 年 第 49 週 (12 月 3 日～12 月 9 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症警報』発令中です。

◆2012 年 第 49 週 (12/3～12/9) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 49 週 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 5 名

(O157:10 代 男 1 名、20 代 男 1 名、40 代 女 1 名、60 代 男 2 名)

■定点把握感染症の発生状況

○感染性胃腸炎は、今週も患者が増加し、県全体・岡山市・倉敷市・備前地域・美作地域で発生レベル 3 になりました。

感染性胃腸炎による学年閉鎖が、玉野市・津山市の各 1 施設でありました。

○インフルエンザは、県全体で 13 名の発生があり、前週より増加しました。

○水痘は、真庭地域で発生レベル 2 になりました。

○RS ウイルス感染症は、前週とほぼ同数でした。

【第 50 週 速報】

○腸管出血性大腸菌感染症 2 名 (O157:10 代 男 1 名、20 代 男 1 名) の発生がありました。
(12 月 11、12 日)

○インフルエンザとみられる学校の臨時休業が笠岡市の小学校 1 校でありました。(12 月 12 日)

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第 49 週は 5 名の発生があり、2012 年第 1～49 週までの累積報告数は 162 名になりました。県内では 11 月は発生がありませんでしたが、12 月に入りこれまでに 6 名、また第 50 週も 2 名が報告されるなど、患者が増加しています。腸管出血性大腸菌感染症は、夏に患者が増加しますが、冬でも感染の可能性があります。食肉は中心部まで火を通すなど、通常の食中毒予防を励行し、感染予防に努めてください。
2. **感染性胃腸炎**の定点あたり患者数は、今週も増加しました (定点あたり 20.26 → 21.57 人)。患者は、第 44 週以降急速な増加がつづいており、岡山市・倉敷市・備前地域に加え、今週は美作地域でも発生レベル 3 になるなど、流行が本格化しています。発生状況など詳しくは、『感染性胃腸炎情報』をご覧ください。
3. **インフルエンザ**は、前週より増加し (定点あたり 0.07 → 0.15 人)、県全体で 13 名の発生がありました。県南部で患者が増加し、37 週以降発生のなかった美作地域からも患者が報告されており、徐々に増加がみられます。手洗い・うがいなど自分でできる感染予防に努めましょう。県内の詳しい発生状況などは、『インフルエンザ情報』をご覧ください。
4. **水痘 (みずぼうそう)**は、前週より増加し (定点あたり 1.13 → 1.57 人)、真庭地域 (4.00 人) で定点あたり患者数が 4.00 人以上になり、発生レベル 2 になりました。また、岡山市 (2.79 人) でも患者が増加しています。水痘はウイルスによって起こる急性の伝染性疾患で、例年 11 月中旬頃から増加がみられます。9 歳以下の小児期に好発し、予後良好な疾患ですが、成人あるいは妊婦が感染すると重症になる場合があります。
5. **RS ウイルス感染症**の定点あたり患者数は、前週とほぼ同様でした (定点あたり 0.87 → 0.98 人)。増減を繰り返しているものの、2003 年の調査開始以降最も多い状態が 9 月中旬頃からつづいています。地域別では美作地域 (3.50 人) でひきつづき患者が多く、年齢別では 1 歳以下の乳幼児が全体の 74% を占めています。冬に患者が増加する感染症であり、1 歳以下の乳幼児では細気管支炎や肺炎など重症化することもあります。ひきつづき感染予防に努めると共に、県内の発生動向に注意してください。
[○RS ウイルス感染症に関する Q&A \(厚生労働省 平成 24 年 11 月 29 日\)](#)
6. **風しん**は、全国集計で 11 月上旬には 1 週間に 20 人程度と減少傾向でしたが、その後再び 40 人程度に増加しています。2012 年は第 48 週までに 2,137 名が報告され、昨年 1 年間の累積報告数 (371 名) の 5.8 倍にのぼっています。地域別では、東京都、神奈川県で報告がつづいています。岡山県では、6～7 月にかけて男性 6 名が報告されましたが、それ以降発生はありません。

◎感染性胃腸炎、インフルエンザ、RS ウイルス感染症など冬に流行がみられる感染症が増加しています。

外出後や調理前・食事前の手洗い、うがいを励行し、人混みでのマスクの着用など感染予防に努めてください。また、かかったらせきエチケットを守るなど他の人にうつさないように気をつけ、体調の悪いときは早めに医療機関を受診してください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★★★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★★★★★	水痘		★★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		★

【記号の説明】 前週からの推移:

: 2 倍以上の減少

: 1.1~2 倍未満の減少

: 1.1 未満の増減

: 1.1~2 倍未満の増加

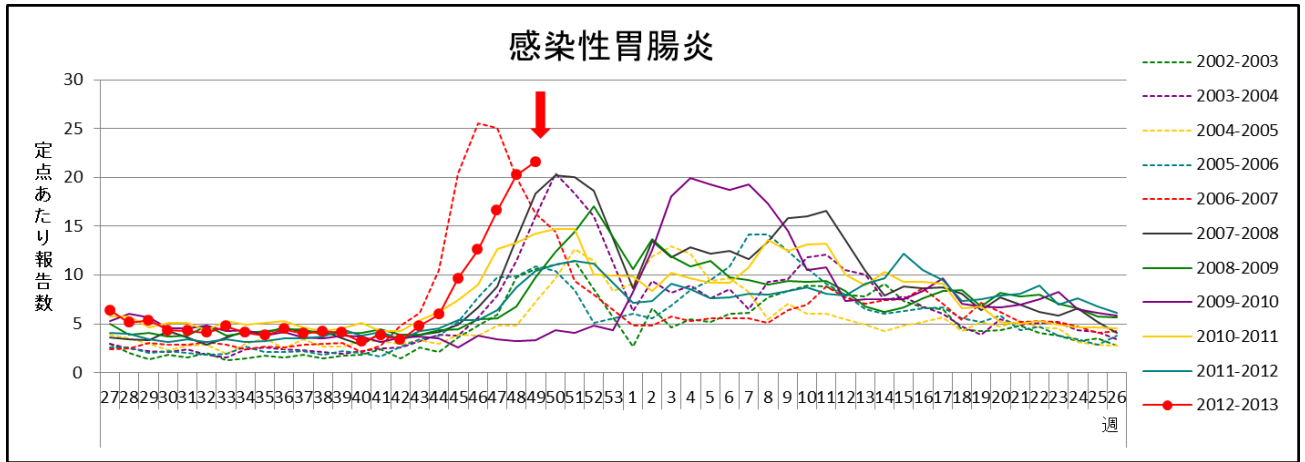
: 2 倍以上の増加

発生状況: 空白:発生なし ★:僅か ★★:少し ★★★:やや多い ★★★★:多い ★★★★★:非常に多い

※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

感染性胃腸炎情報 2012 年 第 49 週 (12 月 3 日 ~ 12 月 9 日)

- 岡山県内の患者報告数は 1,165 名 (定点あたり 21.57 人) で、患者はさらに増加しました。(54 定点医療機関報告)
- 岡山県全体、岡山市、倉敷市、備前地域、美作地域で、発生レベル 3 になりました。
- 玉野市の小学校 1 校、津山市の幼稚園 1 園で感染性胃腸炎による学年閉鎖がありました。

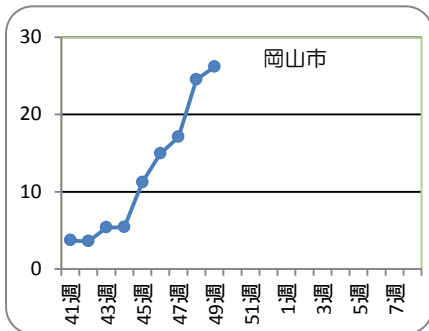


※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、今年 27 週 ~ 翌年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、今週も増加しました (定点あたり 20.26 → 21.57 人)。過去 10 年では 2006 年の第 46 週 (25.54 人)、第 47 週 (25.11 人) に次いで患者数が多い状態であり、大きな流行になっています。

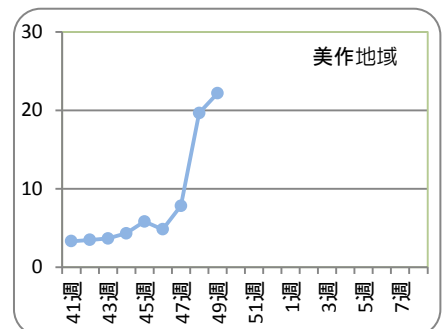
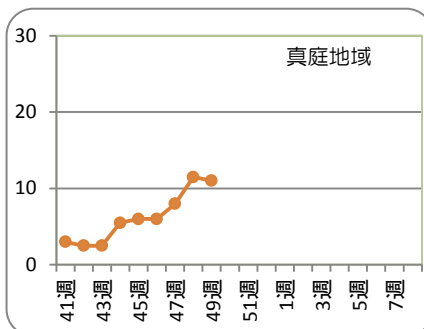
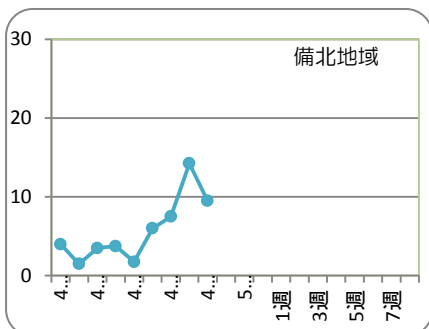
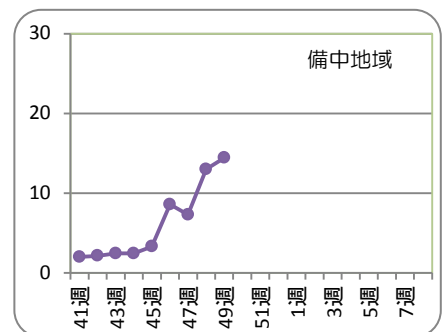
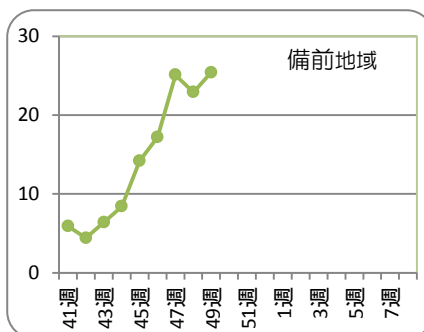
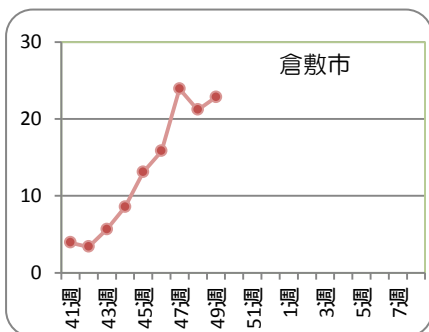
玉野市、津山市の各 1 施設で感染性胃腸炎による学年閉鎖がありました。また、ノロウイルスが原因と思われる食中毒も報告されるなど、県内全域で流行が拡大しています。

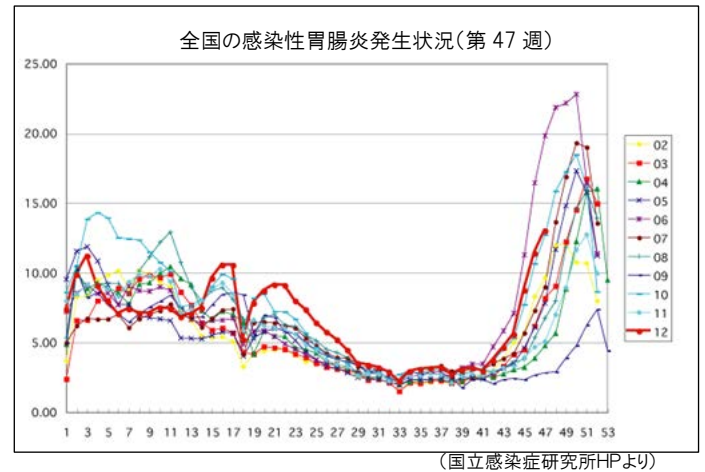
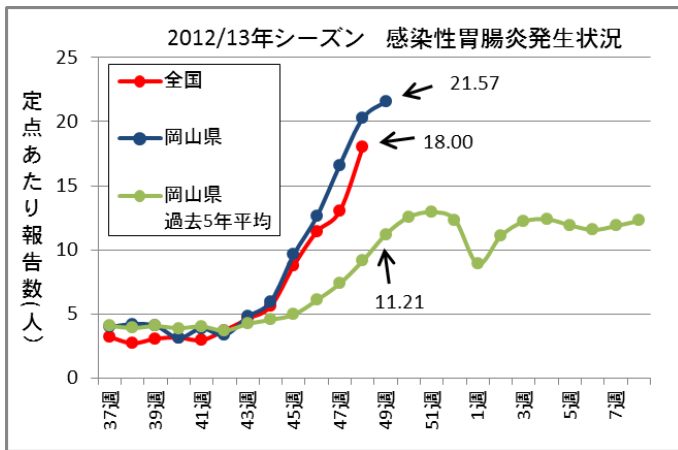
◆地域別・年齢別発生状況



地域別では、多くの地域で患者が増加し、岡山市 (24.50 → 26.14 人)、倉敷市 (21.18 → 22.82 人)、備前地域 (22.90 → 25.40 人) で、大きな流行が発生したと思われる発生レベル 3 が継続し、今週新たに美作地域 (19.67 → 22.17 人) でも定点あたり患者数が 20.00 人を超え、県内でレベル 3 の地域が拡大しています。

年齢別では、1 歳以下の乳幼児が 21% で最も多く、5 歳以下の幼児で 55% を占めています。また、小学生・中学生に該当する年齢層でも患者が増加しており、学校での集団感染が懸念される状態です。





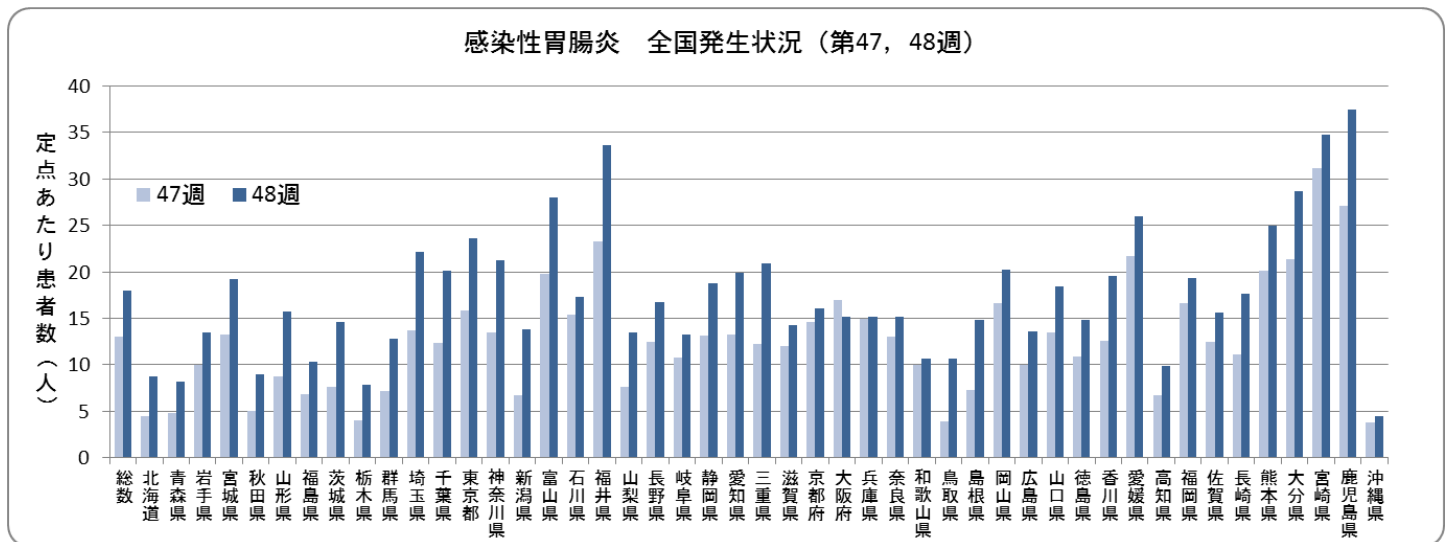
今シーズンに全国各地で検出されたノロウイルスの遺伝子解析によると、従来とは異なった抗原性を有すると推測される新たなGII/4変異株が2012年10月以降全国各地で検出され、流行の主流になっているという報告もあります。岡山県では食中毒患者からノロウイルスが検出されていますが、詳細については現在解析中です。

この時期の感染性胃腸炎の主な原因であるノロウイルスの感染予防は、流水・石けんによる手洗いの励行と、吐物や下痢便の適切な処理を行うことが極めて重要です。排便後や、調理・食事の前には手洗いを励行し、吐物や下痢便を処理するときは、処理する人自身が感染しないよう気をつけましょう。消毒には85℃で1分以上熱湯消毒するか、塩素系消毒剤が有効です。アルコールは消毒効果が低いとされています。

通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

[ノロウイルスに関するQ&Aについて\(厚生労働省\)](#)

[注意！この冬はノロウイルスに注意しましょう。\(厚生労働省\)](#)



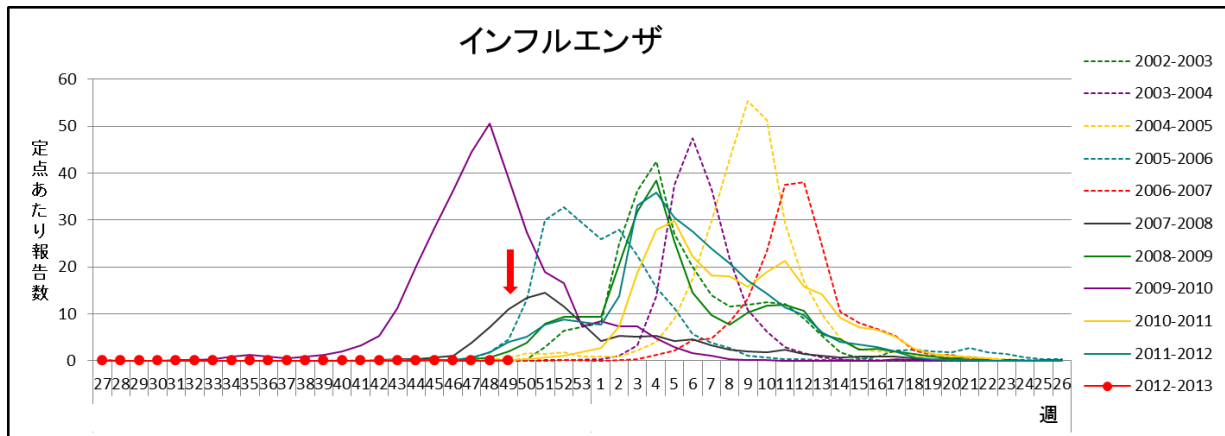
インフルエンザ情報 2012 年 第 49 週 (12 月 3 日 ~ 12 月 9 日)

▶ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 13 名（定点あたり 0.15 人）の発生がありました。（84 定点医療機関報告）
- インフルエンザとみられる学校の臨時休業、インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。

【第 50 週 速報】

- インフルエンザとみられる学級閉鎖が笠岡市の小学校 1 校でありました。（12 月 12 日）



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年 27 週 ~ 翌年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

インフルエンザは、岡山市 5 名、備前地域 4 名、美作地域 2 名、倉敷市・備中地域で各 1 名が報告され、県全体で 13 名の報告がありました（定点あたり 0.07 → 0.15 人）。年齢別にも地域別にもまだ発生は散発的ですが、患者数は前週より増加し、第 37 週以降発生がなかった美作地域でも報告されるなど発生地域も広がりをみせています。

12 月に入りインフルエンザは流行のシーズンを迎えています。第 50 週には、笠岡市の小学校で集団感染も発生していますので、手洗い・うがいなど自分でできる感染予防を心がけましょう。

全国集計第 48 週（11/26～12/2）速報値によると、全国では定点あたり 0.31 人（前週 0.22 人）であり、都道府県別では佐賀県（4.28 人）、沖縄県（2.21 人）で定点あたり 1.00 人を越えており、37 都道府県で前週よりも増加が認められます。全国で検出されたインフルエンザウイルスは AH3 型が 117 件、AH1pdm09 型が 14 件、B 型が 14 件であり、昨シーズンの同時期同様 AH3 型が最も多く検出されています。

インフルエンザがうつらないするには

1. 飛沫感染、接触感染といった感染経路を断つことが大切です。

- ・外から帰ってきたときには手洗いを心がけましょう。
- ・アルコールを含んだ消毒液で手を消毒するのも効果的です。
- ・流行期には人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用するなどして感染を防ぎましょう。
- ・普段からの健康管理も重要です。栄養と睡眠を十分にとり、抵抗力を高めておくこともインフルエンザの発症を防ぐ効果があります。

2. 予防接種も重要です。

- ・予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- ・流行するウイルスの型も変わるので、毎年、定期的に接種することが望まれます。

インフルエンザにかかったとき、特に気をつけることは

「他の人にうつさない」ことが大切です。

- ・せきが出るときはマスクを付け、せきエチケット*を行いましょう。
- ・同居する他の家族、特に重症になりやすいお年寄りなどにはなるべく接触しないよう心がけましょう。
- ・家族が患者さんと接するときには念のためマスクを着用し、お世話は、こまめに手を洗いましょう。

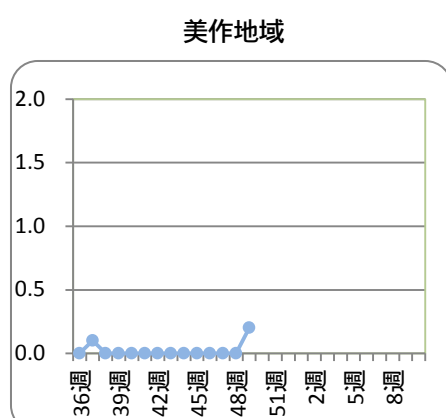
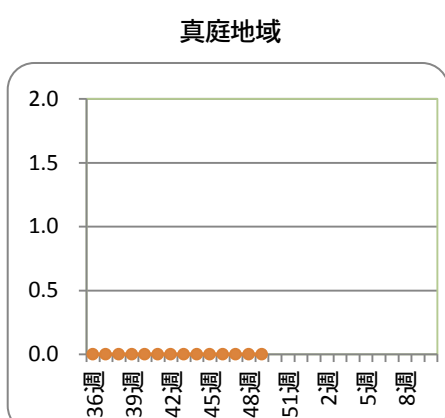
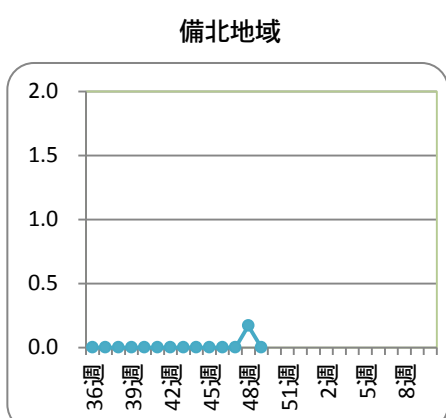
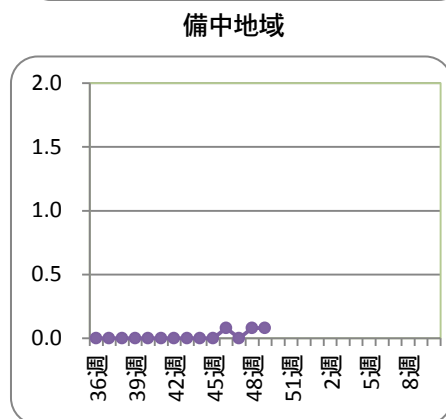
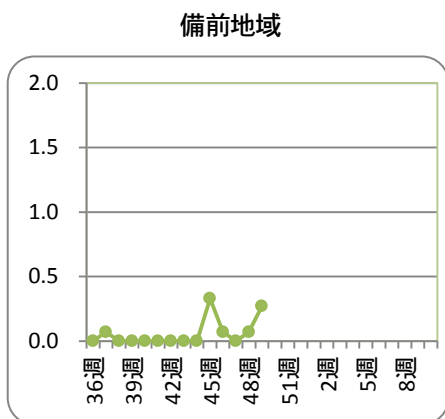
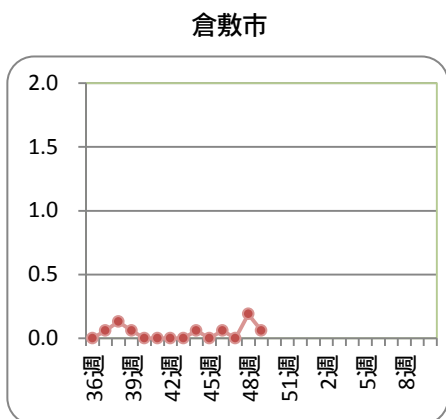
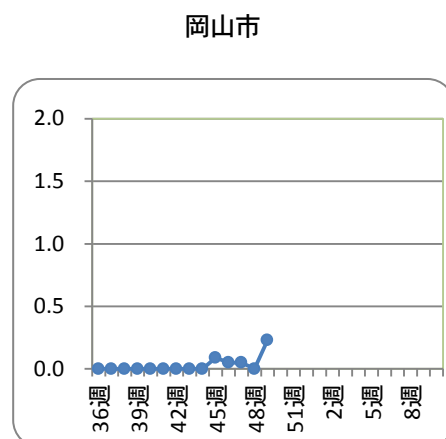
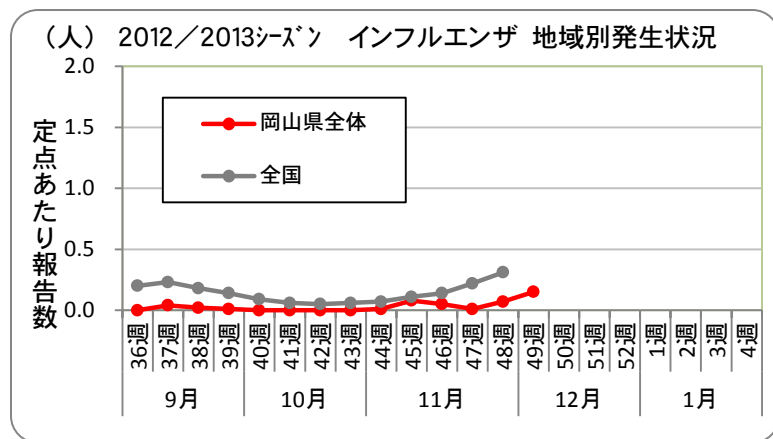
※せきエチケット：人に向かって咳やくしゃみをしないこと。とっさにせきやくしゃみが出そうなときは、周囲の人から顔をそらし、そで口で口をおおう、また用意があればティッシュなどで口・鼻をおおいます。せきやくしゃみがつづく時はマスクを着用してください。鼻水・痰などを含んだティッシュはすぐにナイロン袋に入れて密封したり、ふた付きのゴミ箱に捨て、直ちに手を洗いましょう。

1. 地域別発生状況

第49週 (12/3~12/9) 前週からの推移 (単位:人)

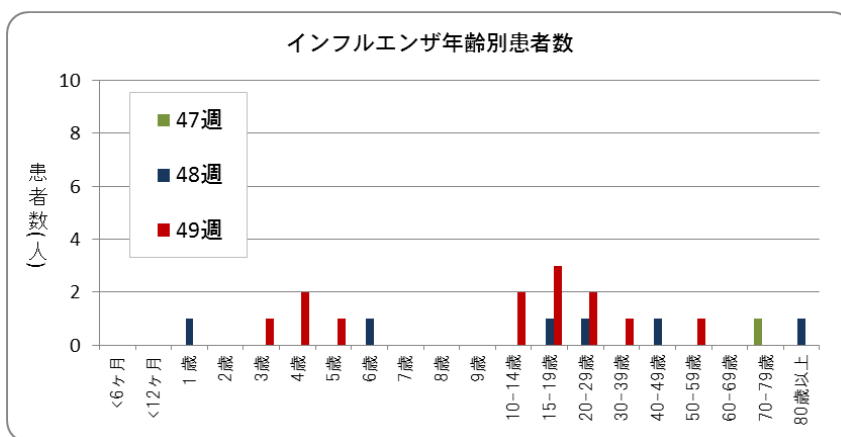
地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	13	↑	備 中	患者数	1	→
	定点あたり	0.15			定点あたり	0.08	
岡山市	患者数	5	↑	備 北	患者数	0	↓
	定点あたり	0.23			定点あたり	0.00	
倉敷市	患者数	1	↓	真 庭	患者数	—	—
	定点あたり	0.06			定点あたり	—	
備 前	患者数	4	↑	美 作	患者数	2	↑
	定点あたり	0.27			定点あたり	0.02	

【記号の説明】 前週からの推移: 2倍以上の減少 ↓ 1.1~2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 →
 1.1~2倍未満の増加 ↗ 2倍以上の増加 ↑ —: 未発生



2. 年齢別発生状況 第49週 (12/3~12/9)

患者数は増加していますが、特定の年齢層での増加はなく、現在は散発的な発生にとどまっています。



3. インフルエンザウイルス検出状況 第49週 (12/3~12/9)

第49週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスはありません。

岡山県ではこれまでに岡山市の集団発生事例から、インフルエンザウイルス AH3 型 1 株を検出しています。

4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数 第49週 (12/3~12/9)

第49週、インフルエンザとみられる学校の臨時休業はありません。

1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	—	12	—	12	—	1	—	—	—	—	—	1	H24. 11. 6
岡山市	—	12	—	12	—	1	—	—	—	—	—	1	H24. 11. 6
倉敷市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備前地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備中地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備北地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
真庭地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
美作地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

第49週：0施設

累計：1施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—

保健所別報告患者数 2012年 49週 (2012/12/03～2012/12/09)

2012年12月12日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	13	0.15	5	0.23	1	0.06	4	0.27	1	0.08	-	-	-	-	2	0.20
RSウイルス感染症	53	0.98	13	0.93	10	0.91	4	0.40	3	0.43	-	-	2	1.00	21	3.50
咽頭結膜熱	8	0.15	2	0.14	1	0.09	-	-	3	0.43	-	-	1	0.50	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32	0.59	16	1.14	10	0.91	2	0.20	2	0.29	-	-	-	-	2	0.33
感染性胃腸炎	1165	21.57	366	26.14	251	22.82	254	25.40	101	14.43	38	9.50	22	11.00	133	22.17
水痘	85	1.57	39	2.79	12	1.09	6	0.60	7	1.00	3	0.75	8	4.00	10	1.67
手足口病	15	0.28	9	0.64	3	0.27	3	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	19	0.35	11	0.79	4	0.36	1	0.10	3	0.43	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	1	0.50	-	-
流行性耳下腺炎	13	0.24	3	0.21	2	0.18	7	0.70	1	0.14	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	2	0.40	2	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	0.80	4	4.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2012年 49週 (2012/12/03～2012/12/09)

2012年12月12日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	13	0.15	5	0.23	1	0.06	4	0.27	1	0.08	-	-	-	-	2	0.20
咽頭結膜熱	8	0.15	2	0.14	1	0.09	-	-	3	0.43	-	-	1	0.50	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32	0.59	16	1.14	10	0.91	2	0.20	2	0.29	-	-	-	-	2	0.33
感染性胃腸炎	1165	21.57	366	26.14	251	22.82	254	25.40	101	14.43	38	9.50	22	11.00	133	22.17
水痘	85	1.57	39	2.79	12	1.09	6	0.60	7	1.00	3	0.75	8	4.00	10	1.67
手足口病	15	0.28	9	0.64	3	0.27	3	0.30	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	1	0.50	-	-
流行性耳下腺炎	13	0.24	3	0.21	2	0.18	7	0.70	1	0.14	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	2	0.40	2	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2012年 第49週 2012/12/03~2012/12/09)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	13	-	-	-	-	1	2	1	-	-	-	-	2	3	2	1	-	1	-	-	-

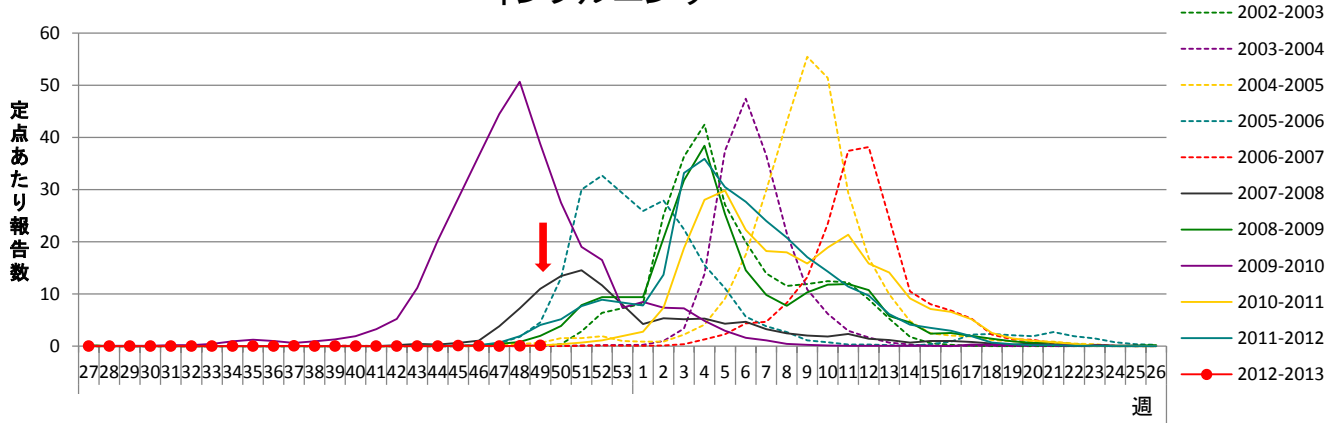
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	53	13	9	17	6	5	1	1	1	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	8	-	-	2	2	-	-	2	-	1	-	1	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32	-	-	2	2	4	6	7	1	1	3	3	1	-	2
感染性胃腸炎	1165	10	62	172	127	106	89	87	69	61	48	48	103	34	149
水痘	85	1	9	13	13	11	13	7	5	5	4	1	2	-	1
手足口病	15	-	-	3	2	4	2	2	-	-	-	-	1	-	1
伝染性紅斑	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	19	-	9	8	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	13	-	-	1	1	3	2	2	1	-	2	-	1	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	1	1	-

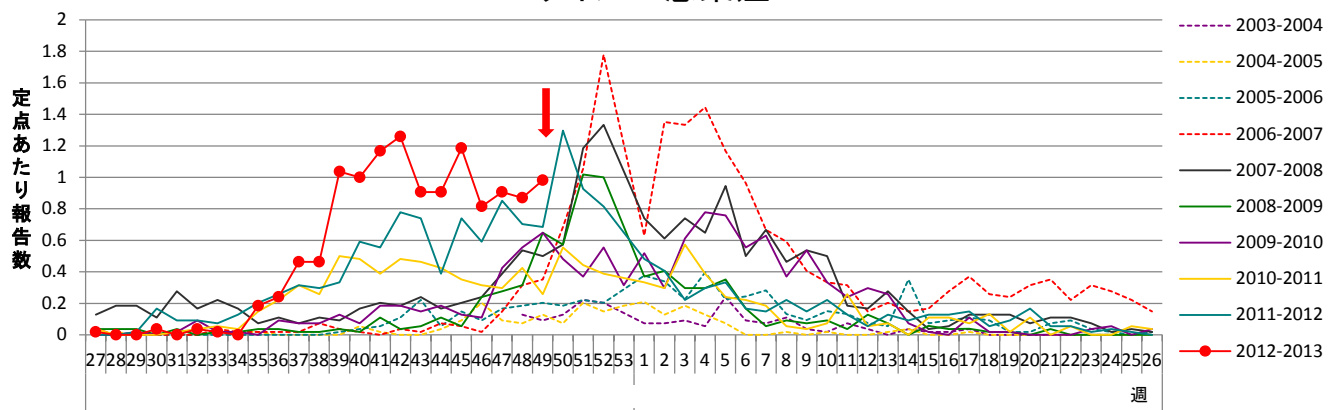
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-

(- : 0)

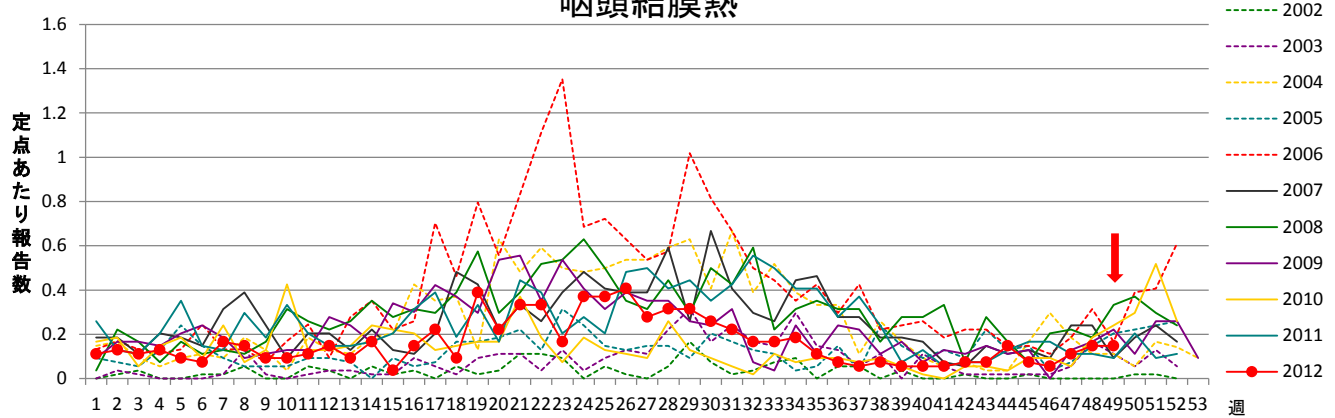
インフルエンザ



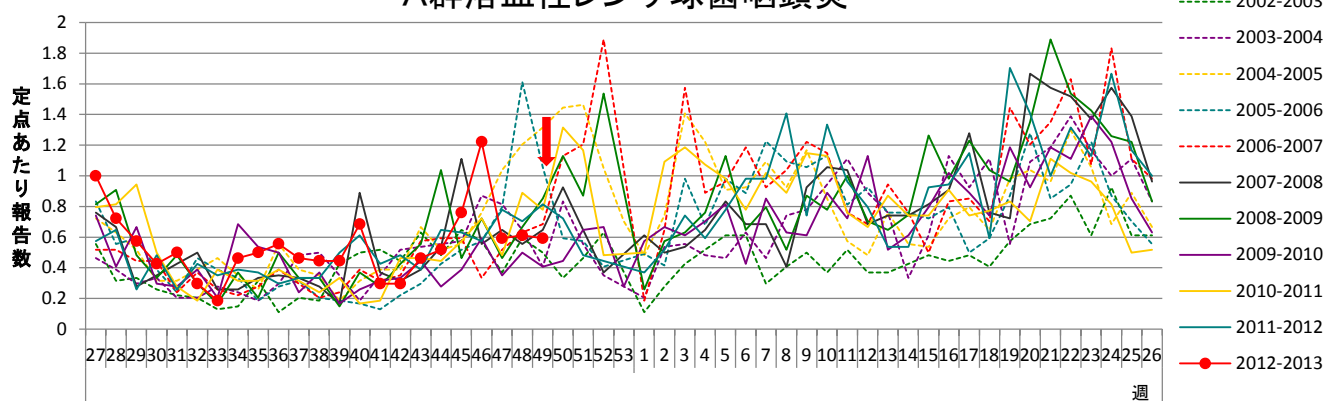
RSウイルス感染症



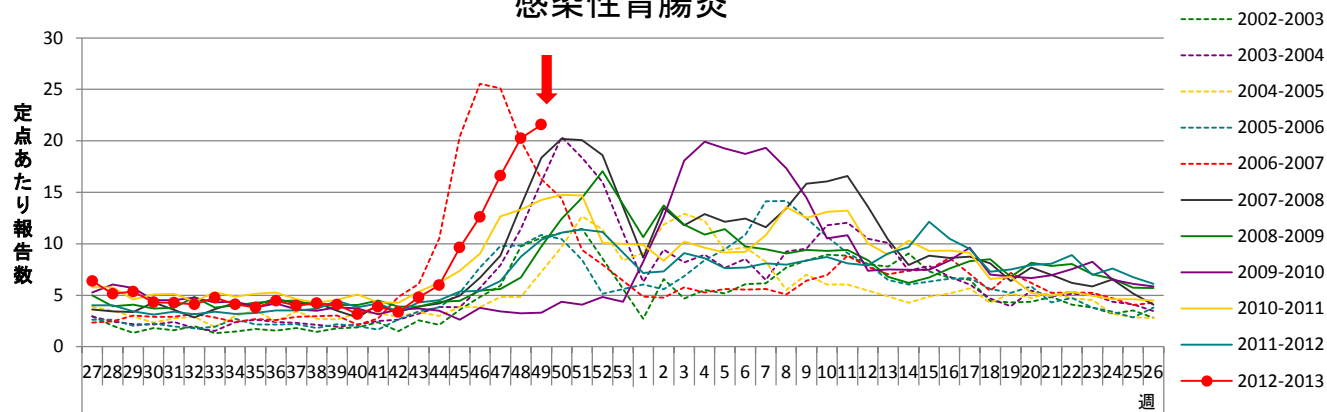
咽頭結膜熱



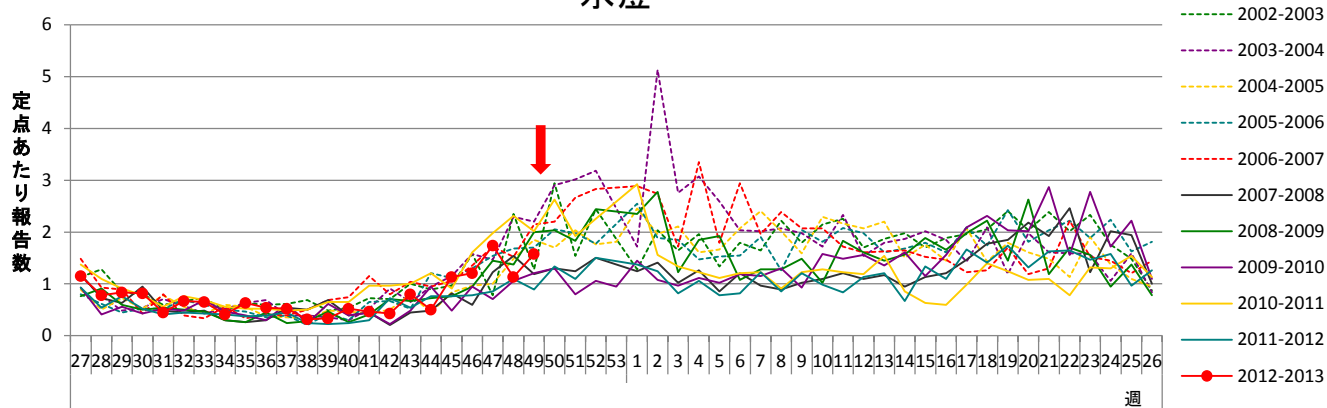
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



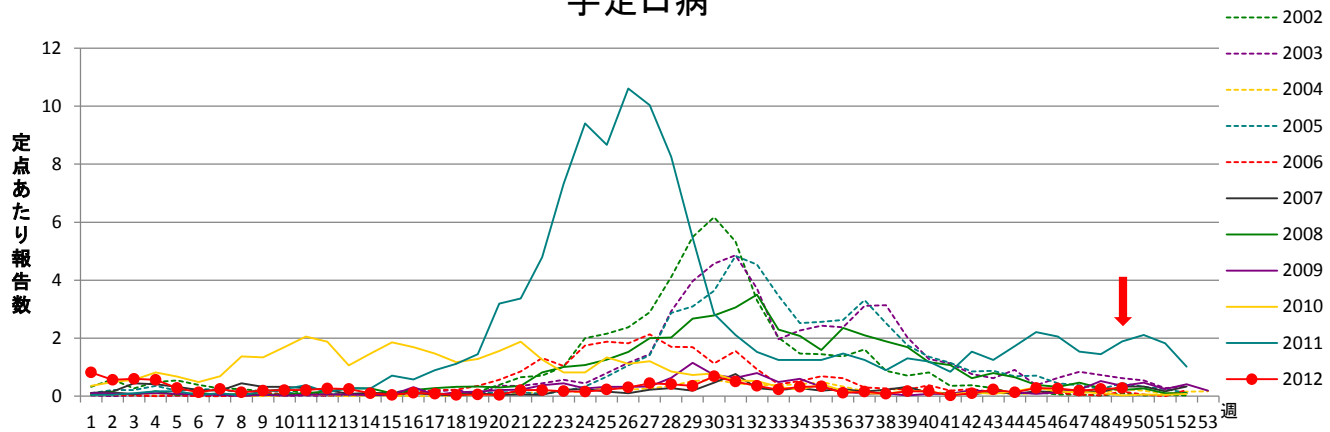
感染性胃腸炎



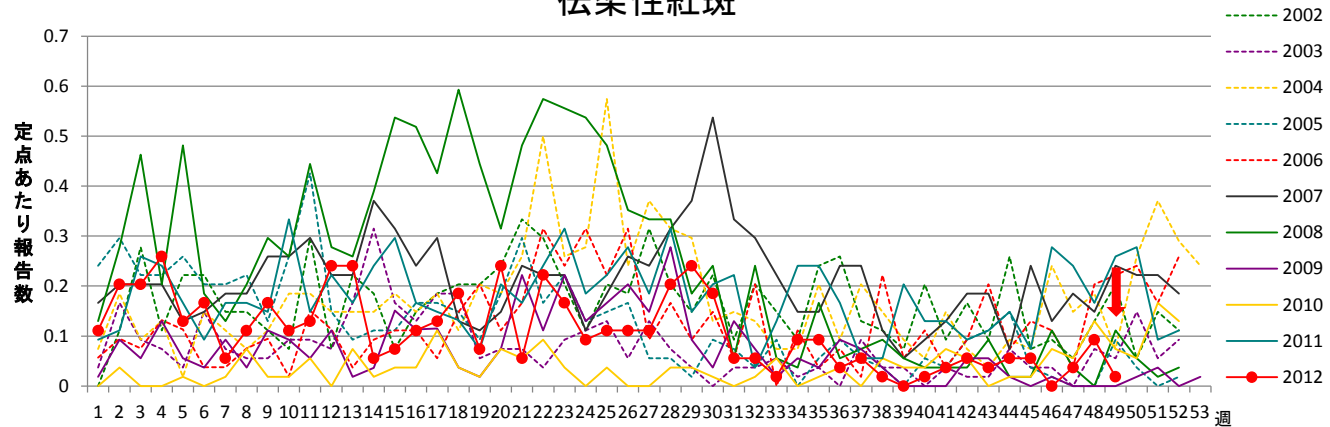
水痘



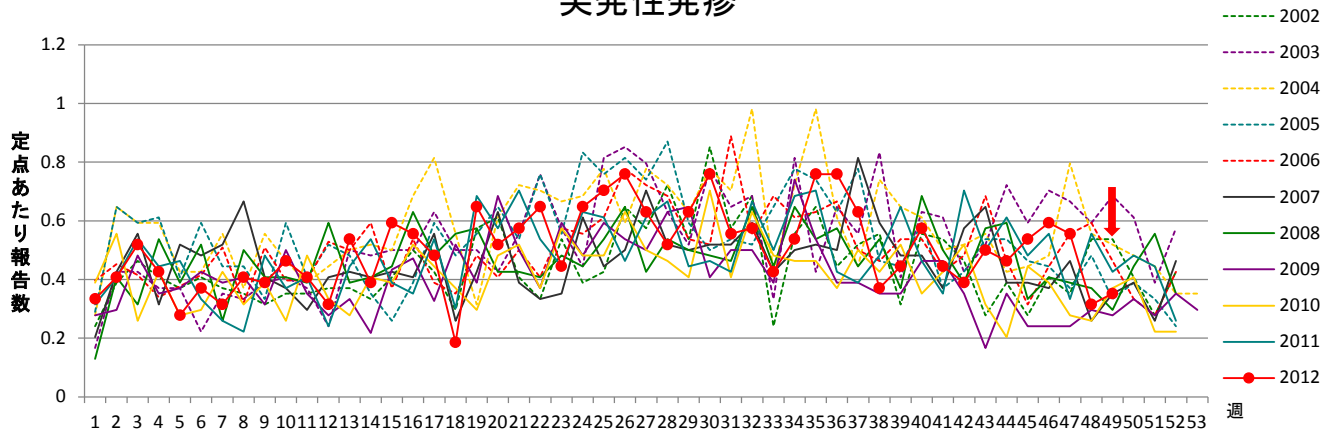
手足口病



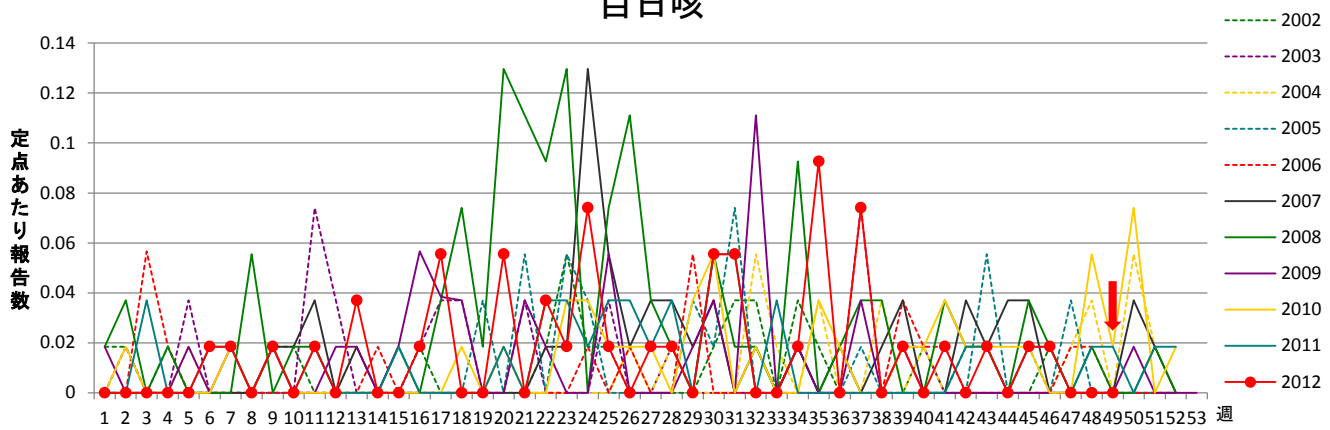
伝染性紅斑



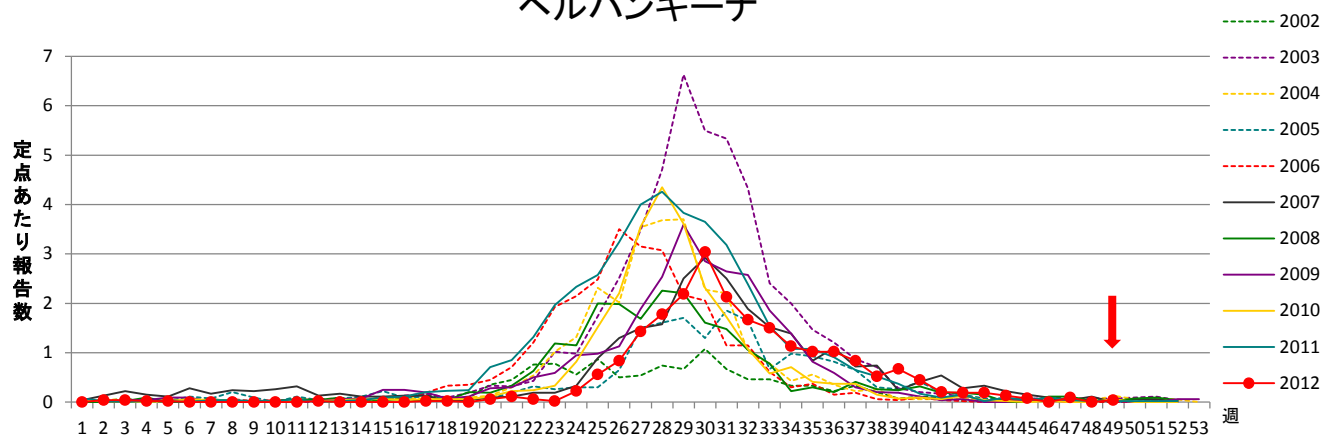
突発性発疹



百日咳



ヘルパンギーナ



流行性耳下腺炎

